

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々の児童生徒の障がい特性に適切にきめ細かな教育を、専門性豊かな教職員が、児童生徒および保護者のニーズに応えながら系統的かつ継続的に実践していく学校をめざす。

- 一人ひとりの障がい特性に応じて、社会的・職業的自立にむけたキャリア教育をベースとしながら個々の児童生徒に見合った「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用する。
- 卒業後の個々の社会的自立実現をめざし、地域及び各方面との交流や関係諸機関との連携を通じて、それぞれのコミュニケーション力や自己決定力を高め、「ともに生きともに学ぶ」取組みを推進する。
- 地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮するため、地域支援活動の紹介や実績について積極的に情報発信し、地域の特別支援教育力向上に寄与する。

【めざす卒業生像】「自ら選択し、思いを発信できる人」「お互いを大切にして、仲間と協働できる人」

2 中期的目標

1 児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される、安全で安心な学校づくりの推進

- 体罰、セクハラ等、児童生徒に対する人権侵害の防止・根絶に取り組む。また、学校いじめ防止基本方針に基づき、保護者の協力や関係機関・専門機関と連携しながら、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。
- 防災・防犯計画及び大規模災害時における対応マニュアルの点検・見直しや必要物品の充実等、地域やPTAと協働して防災体制の確立を図ると共に、日常的な学校生活内における防災教育を推進する。※
- 個人情報を適切に管理運用する。
- 学校給食等を通じた食育の更なる推進により、食物への興味・関心を高める。

※ 教職員向け学校教育自己診断における項目「事故・災害に対し迅速に対応できるよう役割分担が明確化された訓練の実施」の評点が73点(R9)以上になる。

【実績】R3:67.7点、R4:70.5点、R5:81.2点、R6:67.5点、【目標】R7:70点、R8:71点、R9:73点

2 児童生徒一人ひとりの障がい特性や教育的ニーズに応じた支援を充実させるための、教員の専門性及び授業力の向上

- 知的障がい教育における様々な手法を取り入れて、児童生徒の自己肯定感や自尊感情を高め一人ひとりに必要で適切な指導支援を充実させる。
- 個々の教員及び学校全体の授業力を向上させ、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を実践する。
- 教職員の働き方改革を進めながら、経験年数の少ない教員やミドルリーダー等の幅広い人材育成を推進する。
- 学校生活全般において、合理的配慮の視点に基づきICTやユニバーサルデザインを活用し、児童生徒に有効な支援の工夫に努める。

3 全校的な社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進および次ステージ移行を支援する体制の充実

- 本校キャリア教育についての重点項目を実践することで、小学部・中学部・高等部の教育活動の一貫性、継続性、系統性を更に深め、「めざす卒業生像」の実現を促進する。
- 「学習指導案」「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」「個別の移行支援計画」をより密接・円滑に連動させ、就学前から卒業後の進路まで、児童生徒一人ひとりのライフ・ステージに的確に反映できるようにする。
- 関係機関との連携を深め、生徒一人ひとりが希望する進路の実現、就労自立や社会参加のための教育の充実を図る。

※ (1)～(3)を通して、就労率8%、3年後定着率90%超をめざす。[R4 就労率:11%、定着率85% R5 就労率9%、定着率100% R6 就労率10%(予定)]

4 地域・福祉・労働等の関係機関との連携強化による開かれた学校づくりと支援学校のセンター的機能の発揮

- 本校通学区の各市町教育委員会と連携し、交流及び共同学習等をより一層活発化させて、豊能地域の特別支援教育力向上を図る。
- 本校の教育活動について地域(本校通学区)に向けて積極的に発信していくとともに関係機関との連携を深め、支援教育の理解・支援の深まりと広がりをめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■集計結果について</p> <p>(1) 上位3項目の評点</p> <p>【保護者 総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている(90.3) 6 学校は、連絡帳や電話連絡等で家庭への連絡を適切に行っている(89.3) 2 子どもは楽しく学校に通っている(87.7) <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 18 教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない(88.8) 22 教職員は、学校給食を活用して、家庭と連携して、食に関する指導を行っている(83.6) 23 教職員は、保健室や保護者と連携して、児童・生徒の健康の保持・増進に努めている(83.6) <p>【中学部・高等部生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 あなたは、友だちと、楽しく過ごしていますか(87.0) 3 先生は、あなたに、丁寧な言葉づかいで話をしてくれますか(84.1) 7 先生は、約束(きまりやルール)について、教えてくれますか(82.5) <p>(2) 下位3項目の評点</p> <p>【保護者 総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 13 学校は、子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている(68.2) 14 学校は、ICT(パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報 	<p>【第1回 令和7年6月11日(水)】</p> <p>○令和7年度学校経営計画及び学校評価、学校生活全般、キャリア教育全体計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学部から高等部までのつながり、積み重ねが重要。 ICT教育実践の「推進」から「活用」へ目標を変えたことに期待。 <p>○本校の防災の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAとして今年度も協力して取り組んでいく。 行事ごとの安全意識を教員も保護者ももっと持たないといけない。 有事の際の保護者引き渡しを年に1回でも取り組むべき。児童生徒の在籍規模を踏まえ、各保護者が同時に迎えに来た際のシミュレーション(自家用車の誘導など)は必要では?発信だけではなく実践も大事。 校内環境問題は、限られた空間でいかに安全に過ごせるかの工夫も必要。日頃から心身の安定を図る方法を身につけることも。(例:呼吸法・太極拳等) <p>○令和6年度進路決定状況、新規採択の教科書等、その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員による実習先見学の実施は?担任が実際に足を運び、生徒と一緒に考えていくという意識が大切。 重度障がい者の作業施設等減少。「事業所と連携して取り組む」という校長の考えから、在籍者数の多い本校でも、少しずつ進めていけたらいいと思う。

府立豊中支援学校

<p>機器)を活用した教育活動に取り組んでいる(68.8)</p> <ul style="list-style-type: none"> 15 学校は、地域と連携し(他校交流学习・国際交流・出前授業・移動図書館・外部講師・進路講話など)よりよい教育活動に必要な人材や資源を活用している(71.4) <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができています(66.0) 4 事故・災害に対し迅速に対応できるよう、役割分担が明確化され、訓練ができています(69.2) 9 学校間交流や居住地校交流において「交流および共同学習」が充実している(69.4) <p>【中学部・高等部生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 あなたは、学校に行くのが、楽しいですか(65.0) 6 あなたは、担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか(69.5) 11 先生は、あなたのことをわかってくれますか(72.5) <p>■分析</p> <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者総合集計では、21項目中、90点台が1項目、80点台が14項目、70点台が4項目、60点台が2項目となっており、7割以上の項目で肯定的な回答。 昨年度、学校運営協議会での結果報告の際、「各学部で質問内容のとらえ方に違いがあるのではないか」とのご意見をふまえ、今年度は学部ごとに集計。学部間比較では「3 授業内容は子どもに合うように工夫されている」の項目で、差がみられた。他学部と比べ、中学部で「あまりあてはまらない」という回答が多かった。その理由として、小学部から中学部へ進学するにあたり、カリキュラムの違い(小学部では基本的な生活習慣や集団生活のルールを身につけることに重点を、中学部では教科別の指導、職業や社会参加を見据えた実践的な指導に、より重点を置いている)やグループ制、教科担当制といった大きな変化が考えられる。総合の評価では、「20 学校は、授業参観や懇談、学校行事などに参加する機会を設けている」の評点が最も高く、評点が90点以上であった。また、昨年度と比較して「17 学校は、学校給食を通して食育の推進に取り組んでいる」の評点が最も向上していた。以下2項目の評点が低かった。 <p>【13 学校は子どもが学習しやすいように施設・設備が整えられている】</p> <p>【14 学校はICTを活用した教育活動に取り組んでいる】</p> <p>【教職員】</p> <p>26項目中、80点台が9項目、70点台が13項目、60点台が4項目。昨年度と同様に「18 教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない」が最も高い評点。引き続き、学校全体で人権意識を高め、自分や同僚の児童・生徒への接し方をふりかえりながら指導・支援をしていく。「22 学校給食を活用して、家庭と連携して、食に関する指導を行っている」「23 保健室や保護者と連携して、児童生徒の健康の保持・増進に努めている」の評点が向上しており、学校給食を教材とした指導や栄養教諭による給食だより・献立表を通じた家庭との連携、また養護教諭を中心とした組織的な保健・健康に関する情報共有体制や、児童・生徒の健康課題について担任・保護者・養護教諭が協力して対応していること等、学校全体として食育と健康教育に関する取り組みが効果的に機能し、教員の意識も高まっていることが窺える。</p> <p>また、保護者の回答でも「食育」の項目で評点の向上が見られた。今後も保護者と連携しながら児童・生徒の心身の健康について学校全体で取り組んでいく。以下の2項目は評点が低かった。</p> <p>【3 教科会・教科研などを通じて、各教科で教材などに関して学部をこえて情報交換ができています】</p> <p>【4 事故・災害に対し迅速に対応できるよう、役割分担が明確化され、訓練ができています】</p> <p>【生徒】</p> <p>昨年度まで「あなたは病気やけがの時に保健室に行くと安心できますか」という項目を設定していたが、保健室を利用する生徒に限られていることや、府教委の実施要項に沿わない項目であったため、今年度は内容を変更し「先生はあなたのことをわかってくれますか」という項目とした。</p> <p>13項目中、80点台が4項目、70点台が7項目、60点台が2項目。</p> <p>「1 あなたは、友だちと楽しく過ごせていますか」「3 先生は、あなたに、ていねいな言葉づかいで、話をしてくれますか」の項目が上位であった。学校が生徒にとって、単なる学習の場ではなく、友だちや教員との関りを通して、楽しく安心できる居場所として機能していると考えられる。教職員が人権意識を高くもち、生徒に丁寧に接することで、生徒が「自分は大切にされている」と実感できるような関りを一層推進していく。また、その気持ちが友だちに対する優しさにつながるよう指導していく。</p> <p>「学校生活アンケート」以外に、代表委員会の「学校についてのアンケート」を通して、全校児童・生徒の意見を聞く機会を設けている。以下の2項目は評点が低い。</p> <p>【13 学校に行くのが楽しいですか】</p> <p>【6 担任以外にも、気軽に相談できる先生がいますか】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選定教科書を意識して採択していることや、現代にあった内容の教科書が用いられていること。また、イラストがあり、わかりやすいと感じた。 卒業生は学校に来たい、先生に会いたいと思っている。先生方の協力を願う。 <p>【第2回 令和7年9月24日(水)】</p> <p>○学校教育自己診断、学校生活アンケートの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の内容が改善されわかりやすくなった。 保護者回収率の改善策としてPTA学年委員のネットワークを活用し働きかける。 府教委で集約された各校のアンケート結果がフィードバックされると、各学校の取組み等が共有でき、他校と比較した自校の状況が考察できるのでは。 <p>○学校経営計画に関する進捗報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴的な取り組みに自信をもって次につなげていってほしい。 小学部から高等部まで見通したキャリア教育の実践が見られて良い。 高等部と小学部の掃除の交流など、学部間の交流が増えていて良い。 作業依頼書で仕事をもらおうシステムも良い。 職業コースで取り組んだことが学部を超えた交流になっている。 学校でできないことは卒業してもできないものだ。在学中に学校でできることを増やしてほしい(自己選択・自己実現) 例えば「あいさつ」等、継続して経験を積んでいくことが大切。個に応じた表現方法を小学部から取り組み、身につけて、社会に出たときに役に立つようにすることも必要なこと。相手と通じ合う喜びを感じることで大事で成長につながる。 生活全てがキャリア教育。教員も挨拶をし、手本となるよう心がけてほしい。 「キャリアだより」は目に見えるもので取り組みを発信されていて素敵である。 <p>【第3回 令和8年2月4日(水)】</p> <p>○学校教育自己診断、学校生活アンケートの集計結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因をしっかりと考察できており、今後の取組みも検討され示されている。 ICTの活動が保護者へ浸透していないのは、普段の取組みを見る・知る機会が参観くらいしかないからではないか。 代表委員会のアンケートから、児童生徒みんなが学校を楽しんでいることは伝わってくる。 <p>○就労支援アドバイザーの活用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の話聞く機会はなかなかないので、良い機会となる。 始まったばかりの取り組みであり、学校のニーズが反映されていくと良い。 保護者のニーズにも応えていただきたい。 <p>○令和8年度 学校経営計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもだけではなく親も地域から孤立しがちであるので、知的障がいのことを知ってもらうためにできることをしていければと思っている。 行事の教育的な意味を発信していく必要がある。 子どもたちが選択し、決定していく力はぜひ学校で身につけてほしい。 地域とともに過ごす共生社会の実現に向けて取り組めたら良い。 <p>⇒ 令和8年度計画の「めざす学校像」と「中期的目標」について承認された。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R6年度値]	自己評価
1 安全で安心な学校づくり	<p>(1) 児童生徒に対する人権侵害の防止・根絶</p> <p>(2) PTAと協働した防災体制の構築</p> <p>(3) 個人情報の適切な管理運用</p> <p>(4) 食育の更なる推進</p>	<p>(1) 教職員の人権意識向上に向けた年間2回以上の人権研修実施及び取組プランに基づく毎月20日の注意喚起、意見箱の活用や授業公開。 全校組織によるいじめの未然防止、早期発見・早期解決。</p> <p>(2) ア 緊急時のより有効な情報伝達手段の運用(学習支援連絡網、緊急時ブログ等) イ 豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT を踏襲した防災教育の推進</p> <p>(3) ア 児童生徒の個人情報取扱規定を見直し、実効性のある校内システムに改善 イ 個人情報を含む文書等の誤配付が生じた場合の被害や影響等について、理解深化を図る研修を実施</p> <p>(4) 給食を通じた児童生徒の食に関する興味関心の拡大</p>	<p>(1) 年間2回以上の全校人権研修の実施と各学部における人権教育の推進。人権に係る重大事案0件。教員の学校教育自己診断における項目「教職員は、児童・生徒に人権意識をもって接し、体罰やいきすぎた指導は行わない」の評点が85点以上になる。[84.5] また「いじめの未然防止」について82点以上の評点をめざす。 [81.6点]</p> <p>(2) ア 避難訓練時の保護者からの「学習支援連絡網」返信率1時間以内50%超をめざす。[43.9%・35%] イ 教職員向け学校教育自己診断における項目「学校防災に対する意識が高まっている」の評点が74点[72.9点]、保護者向けの関連項目は現状の維持または1点以上の評点向上をめざす。[85.2点]</p> <p>(3) ア 今年度前期中に見直しを完了し、後期から新たな取扱規定による配付システムに移行。個人情報誤配付等をゼロにする。 イ 個人情報の取り扱いに係る研修を実施し、教職員の意識の向上を図る。 研修後のアンケートにより、肯定的評価90%以上をめざす。</p> <p>(4) 学校教育自己診断(教員・保護者)、学校生活アンケートの給食関連項目各1点以上の評点向上をめざす。 [教職員:77.7、保護者:85.0、生徒:79.1]</p>	<p>(1) 全教職員対象の悉皆人権研修を2回実施、重大人権事案0件。[88.8](○) いじめ未然防止[83.4](○)</p> <p>(2) ア 1時間以内返信率[47.4](△)事前周知の複数回実施等で改善を図る イ 教職員[72.3](△)保護者[82.6](△) 多様な状況を想定した避難訓練の実施と防災備蓄品等の一層の充実を図り、積極的に情報発信。</p> <p>(3) ア 府のガイドラインに基づくセキュリティポリシーの見直しや、個人情報を取扱う全ての起案文書に注意喚起を記入し、必要に応じて職員朝礼等で周知。(△)※連絡帳の持ち帰り間違い1件 イ 関係資料や自己チェックシート等による書面研修を実施。(△)※研修アンケート未実施</p> <p>(4) 教職員[83.6]・保護者[87.5](○) 生徒[76.6](△)</p>

府立豊中支援学校

<p>2 教員の専門性及び授業力の向上</p>	<p>(1) 校内の研究・研修体制の整備推進、授業改善</p> <p>(2) 授業研究や実践発表、外部人材の活用等を通じた専門性及び授業力の向上</p> <p>(3) 効果的で機能的な学校運営組織づくり</p>	<p>(1) ア 知的障がい教育関連の研修会・研究会等へ積極的に参加し、先進的な教育を取り入れる。</p> <p>イ 教務部、研究支援部、情報部が連携して、本校におけるカリキュラムマネジメントに則った授業づくりを推進する。</p> <p>ウ 指導教諭・首席を中心とし、研究支援部及び各教科会で授業改善の全校的強化を図る。 また、初任期後半（本校3～6年め）の教員が教育実習指導教員を担当し、自身の授業力向上を図る体制を構築する。</p> <p>(2) ア 外部機関・人材等を積極的に活用し、障がい特性の理解や指導支援の専門性を向上させる。</p> <p>イ ICT 機器の活用を促進するとともに本校における「児童生徒1人1台端末利活用プラン」に基づいた実践を進める。</p> <p>(3) ア 児童生徒の実態に即した負担の少ない学校行事の実施を推進する。</p> <p>イ 会議等の精選を通してより実効性のある授業準備・教材制作等の時間を創出する。</p>	<p>(1) ア 全国レベルの研修会（Web開催も含む）等へ各学部1名以上が参加し、報告・伝達講習会を行い、全校で情報共有する。[5名]</p> <p>イ 観点別学習評価に即した授業づくりを進めるとともに、全校的なカリキュラムマネジメントについて学部間の連携を更に深めて行く。教員の学校教育自己診断における項目「教職員は、カリキュラムマネジメントの必要性を理解し、組織として教育活動の向上に努めている。」の評点が72点以上になる。[70.8点]</p> <p>ウ 引き続き、初任者・10年経験者及び各学部代表による研究授業を実施し、研究協議で実践を共有する。教員の学校教育自己診断における項目「教職員は、校内研修に積極的に参加し研修に努め教育実践に役立っている」の評点が74点以上になる。[72.9点]</p> <p>(2) ア 企業や人材バンク、NPO法人等による出前授業等を活用する。出前授業、指導助言、研修会等を年間90回以上実施する。[96回]</p> <p>イ ICT機器を活用した校内研修会、研究授業、実践発表等を年30回以上実施する。各教員のICT機器を利活用した学習に関するスキルの向上を図る。[28回] 教員の学校教育自己診断における項目「教職員は、児童・生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて、ICT機器を用いた教育の推進とスキル向上を意識している。」の評点が74点以上になる。[73.4点]</p> <p>(3) ア 中学部・高等部生徒対象の学校生活アンケート「あなたは、学校の行事に楽しく参加していますか」の評点が75点以上となる。[74.6点]</p> <p>イ 業務の精選により授業準備時間の確保を進める。ストレスチェック「仕事の量・コントロール」2ポイント減をめざす。[104]</p>	<p>(1) ア 学校全体で8名が参加し、伝達講習等により情報共有 (○)</p> <p>イ 授業づくりや学部間連携は深まっているが指標は未達[70.3] (△)</p> <p>ウ 研究授業等を実施し、研究協議等で実践の共有を図っているが、指標は未達[72.1] (△)</p> <p>(2) ア [179回] (◎)</p> <p>イ ICT機器を活用した教育活動等を実施[35回 ※内訳：校内研修会14回、研究授業12回、実践発表9回] 指標 [74.3点] (○)</p> <p>(3) ア [75.7点] (○)</p> <p>イ [105] (△) 仕事量は変わらなかったが、コントロールの数値が悪化。各部署間における仕事量の偏りの改善・解消等を通じて、目標数値をめざす。</p>
<p>3 全校的なキャリア教育の推進</p>	<p>(1) 社会的・職業的自立にむけたキャリア教育の実践的展開・推進に向けた取組みと体験学習や職場実習の充実</p> <p>(2) 放課後活動、余暇活動等の充実と地域資源の活用</p>	<p>(1) ア 「めざす卒業生像」の実現に向けた各学部の指導重点の遂行と、キャリア教育を反映した授業の実践</p> <p>イ 高等部職業コースの実践推進と生徒の就労観、自立観の促進。中学部における職場体験実習を通じた就労観の醸成</p> <p>(2) ア 保護者や地域と連携した余暇活動等の促進を図る。地域の社会資源との交流を促進する。</p>	<p>(1) ア 教職員向け学校教育自己診断における項目「教職員は、キャリア教育において、社会的・職業的自立や進路実現に向けた教育の実践に努めている」の評点が78点以上になる。[77.3点]</p> <p>イ 高等部職業コース会議において、授業内容と課題の整理を進めるとともに高等部職業コース関連授業について、生徒の技術・知識の理解習得を深める。中学部における職場体験を促進する。学校生活アンケート「先生は、将来(進路のことなど)について、教えてくれますか」の評点74点以上 [72.8点]</p> <p>(2) ア 地域の施設、社会資源等との連携や交流活動が企画できるように全校で連携して、一か所以上の交流活動実現をめざす。</p>	<p>(1) ア [78.1] (○)</p> <p>イ 中学部の職場体験実習を促進し、生徒の適性等に応じたキャリア教育に取り組んでいる。 [80.0] (○)</p> <p>(2) ア 地域のスポーツセンター指導員や本校教員により在校生・卒業生等で構成する陸上競技団体等の活動を支援。また放課後等デイサービス事業所のBCPを兼ねた避難訓練に協力。(○)</p>

府立豊中支援学校

4 開かれた学校づくり・ センター的機能の発揮	(1) 各市町立学校・園等との交流及び共同学習の充実	(1) 学校間交流や居住他校交流の取組みについて、市町教育委員会と連携し、地域の学校への周知、理解を進める。	(1) 各学部における状況に即した学校間交流をリモートや対面で継続的に実施する。[20回] また、本人・保護者が希望する居住地校交流の継続した実施を促進させる（次年度実施率 100%）。活動実施後の保護者（可能であれば本人）の感想等、より分かりやすい評価方法を検討する。[フォーム作成ツールでのアンケート実施回答率 59% 肯定的感想：23 件中 21 件]	(1) 各学部・学年で学校間交流を実施[16 回※内訳 小 9 回/中 4 回/高 3 回] (△) 居住地校交流の希望者は体調不良による中止を除き全て実施[100%](◎) (小 20 件※内中止 2 件) (中 8 件※内中止 1 件) アンケート回答率 [90.4%※小中合計] 肯定的感想[38 件中 36 件※小中合計](◎)
	(2) 訪問相談等、センター的役割の遂行	(2) ア 継続した地域支援を実施するためリーディングスタッフの次世代育成に取り組む。 イ 各市町教育委員会と連携を深め、地域の特別支援教育力の向上をめざす。	(2) ア より有効な地域支援・校内支援のために、市町教育委員会と連携しながら実施体制（訪問相談・来校相談）の工夫を推進する。OJT を基本として、地域での対応力を促進するため、年間 100 件程度の訪問相談を実施する。[167 件（2 月末時点）] イ 1 学期に本校において各市町教育委員会との地域連絡会議を行う。学校見学会に各市町教育委員会少なくとも 1 回、1 名以上の参加を促す。	(2) ア [200 件（年度末見込み）](◎) イ [3 回](○)
	(3) 外部への発信連携 学校ホームページ等を活用した情報発信	(3) 学校ホームページの随時更新を実施するとともに、学校ブログ等で本校教育の情報発信と理解啓発に取り組む。	(3) 学校ホームページを随時更新する。学校および校長ブログ、月平均 15 回以上更新を維持し、情報発信の安定を図る。[月平均 22 回（2 月末時点）]	(3) 校長だより及び学校ブログの掲載は 4 月～12 月（9 カ月）平均[16 回](○)